

図書館ホームページのリニューアルについて — 図書館サイトに求められる新たな水準への飛躍 —

藤岡 豊

このたび関西大学図書館ホームページは大幅な改編を行った。ウェブサイト制作者に業務委託を行うことにより、デザイン面におけるルック&フィールの向上を図るのみならず、サーチ機能を導入して豊富なコンテンツから必要な情報を引き出せるようになった。また、アクセシビリティ（利用のしやすさ）の指針を踏まえた利用者にやさしいインターフェイスを備えてサイト設計を行うと同時に、技術的には必ずしも専門家とは言えない図書館担当者でも総合的な運用を可能にするCMS（Content Management System）という新技術も採り入れている。今回の公開にあたり、これまでの経緯とこうした新機軸や改善点について概説することとしたい。

* * *

図書館ホームページは1995年9月に試験的運用として発足し、翌年に本運用を開始、2000年11月11日に大幅にコンテンツを増やしてリニューアル直前の形となった。しかし、その後7年半にわたる運用の中で、多くの資料情報やサービスの案内を入れるあまり、個々の内容が埋没しがちとなり、利用者は迷宮のように入り組んだページの文書のリンクをたどってさまよい、必要な情報を探し出せないでいるといった状況が聞かれるようになった。また、制作側としてもコンテンツの記述・レイアウトといった形式的な側面で整合性が破綻し、オフィシャルサイトに求められる持続可能で安定したガイドラインを持たせることができず、不安定な要素を抱えていた。

これらの問題は経年的・重層的に蓄積されてきており、もはや量的にも質的にも図書館のホームページ担当者のスキルで解消できるものではなくなっていた。従来のようにコンテンツをひたすらリストの項目を加えていく方法では、制作す

る側でも利用する側でも使用に堪える限界にきており、その克服のためにはコンテンツから全文検索して必要箇所を探し出すサーチ機能や、ひとつの入力が複数の箇所に適切に反映されるようなコンテンツの造りこみといったWebサービスに関する新技術を導入して、根本的に解決することが必要な段階に達していた。

また、コンテンツの在り方についても、この数年の間に今日の標準的な仕様が確立してきた。特に、2004年に制定されたJIS X 8341-3「JIS規格；高齢者・障害者等配慮設計指針—情報通信における機器・ソフトウェア及びサービス—第3部ウェブコンテンツ」は、国内サイトのウェブ・アクセシビリティの指針と位置づけられ、ユーザーフレンドリーなサイト構築のガイドラインとして遵守されるべきものと見なされている。実際、公的機関のサイトや企業サイトでは、この規格に従ってサイト構築がなされ、優良サイトの試金石として定着している。

そのような中で本学図書館でも、2005年より国内の大学図書館サイトの調査を行い、新サイトにおけ



図1：図書館サイトの新しい「顔」：トップページ

る要件の策定から、外部委託による専門的なサイト再構築が必要と判断したのだった。そして、2006年度前半に業者を選定・発注、同10月に本格的なリニューアル作業を開始し、約半年の制作期間を経て、ようやくこの2007年5月28日の公開にこぎつけることができた。

* * *

では、新サイトの実際の画像を見ながら主なページについて解説してゆくことにする。

全てのページについて言えることだが、上部にナビゲーションバーが配されている。その右側にはサイト内検索の入力フォームがあり、これを利用することで、(後述のデータベースポータルページを除いた)図書館サイトの一般的なコンテンツが検索できる。

トップページ〔→図1〕のナビゲーションバーの下に広がる本コンテンツでは、真ん中に「お知らせ」ページの履歴リスト、右側に開館スケジュール(=

実行できるように入力フォームが設けられている。

次に、「お知らせ」のページ〔→図2〕について解説する。トップページの中央部にある「お知らせ」の履歴リストからたどると、このような図書館のニュースのページにたどり着く。

これは制作担当者側のことになるが、通常こうしたページを作るときに、従来であればホームページ作成の専用ソフトウェアを用いて、HTMLファイルの編集作業として制作していく。それに対して、今回導入しているCMS(Content Management System)と呼ばれるWebサーバーにセッティングされた編集ツールによる作業では、作業用の端末コンピュータでブラウザを用いてサーバーのCMSにアクセスし、ブログのページを制作するときのように、いくつかの入力フォームにテキストを入力作業を行う。その結果、そのテキストが特定のスタイルでレイアウトされ、一連のサイトのコンテンツの中のひとつのページとしてしっくりなじむ統一感のあるデザインで「お知らせ」のページが簡単に完成し、ファイルでの操作や取り扱いをすることもなく、そのままネット上に公開できるようになっている。

こうしたCMSによる効率的なページ作成は、他にも開館カレンダー(トップページおよび年間カレンダー)のページや後述する「データベースポータル」にも採用されており、普段のメンテナンス作業



図2:「お知らせ」ページの一例

当月分のカレンダー)、左側には資料探索に関連する各種コーナーの説明やリンクとともに、蔵書検索KOALAの検索がトップページからそのまま検索



図3:フロアガイドのページ

でその効果が期待される。

次は、フロアマップ～フロアガイドのページ〔→図3〕を見ていただきたい。

従来の図書館サイトにはなかった館内風景のデジカメ画像を多用して、建築物としての図書館内の空間の広がりや、学生達の図書館利用の様子が伝わるコーナーになっている。

新サイト紹介の最後は、従来サイトでは「ネットワーク情報源」と呼ばれていたオンラインデータベースや電子ジャーナルの紹介・解説文を付帯させたリンク集のコーナーを後継する「データベースポータル」について説明したい〔→図4〕。

「ネットワーク情報源」では左右に分割したフレームなど、従来サイトのその他の部分と構成が異なる



図4：「データベースポータル」のページ

っていたが、「データベースポータル」は他のページとデザインを統合させて一体感を持たせている。

また、前述したCMSにより手軽にデータが作成できる点については「お知らせ」のページと同様である。ただ、「データベースポータル」においては、入力データがデータベースの1レコードとして保持されており、サーチのページのリストからカテゴリーを選択したり、入力フォームにコトバを入れてサーチをかけるといった操作を行うことにより、必要なデータベースの一覧を検索の結果としてその都度生成して表示させるようになっている。その検索の方法には「絞込み検索」と呼ばれるプルダウンメニューを用いる方法もあり、例えば、法情報関係のサイトで、…「国内資料」探索のサイトに限定したうえで、…さらに図書館の「利用契約サイト」に限定したものをまとめて表示する、といったような条件を組み合わせることで使われることが想定される複合的なサーチが簡単に行えるようになっている。

そのようにして組み立てられる一覧の画面から、データベースごとの詳細表示の画面を呼び出せるようになっており、そこでは接続先URLや同時アク

セス数、カテゴリーなどの定形的な情報が表枠内の定位置に配されることで、複数の断片的な情報を概観して把握しやすくなった。

この他にも、「特別蔵書」のコーナーにあるコレクションやマイクロ資料の各種資料の一覧など、サイト内の随所に馴染みやすい自然なレイアウトやアイコン・マーク類の表示、インターフェイスが導入され、見やすさや探しやすさに配慮した設計になっている。

* * *

なお、今回のリニューアルでサイトのURLが、
<http://www.kansai-u.ac.jp/library/>
に変更されている点についてご留意いただきまして、アクセスおよびご活用ください。また、使用されたご感想つきまして、賜りましたら幸甚に存じます。

今回の作業にあたり、ご協力いただきました関係者の方に厚くお礼を申し上げます。

(ふじおか ゆたか 図書館事務室)